

新品種の紹介

奄美地域の早期高糖性品種「さとうきび農林30号」

－ 12月の早期収穫で期待－

【開発の背景】

サトウキビは南西諸島地域を支える基幹作物ですが、台風や夏季の干ばつなどのため、安定生産が1つの課題となっています。その対策の1つとして、奄美地域では植え付けや株出し等を適期に行い、初期生育を十分に確保することが推奨されています。そのため、次作の準備を十分に行って適期に作業できるよう、12月から収穫できる早期高糖性品種が要望されています。

そこで育成されたのが「さとうきび農林30号(品種登録名:KN00-114)」です(写真1)。

【品種の特徴】

種苗法での品種登録名は「KN00-114」です。品種登録名の「K」は「九州で育成」、「N」は「南アフリカ共和国で交配」したことを表しています。「さとうきび農林30号」は「30番目に農林登録されたさとうきび品種」を表す農林登録番号です。サトウキビでは品種登録名ではなく「農林8号」や「農林17号」のような農林登録番号で呼ぶことが多いので、ここでも「農林30号」を用います。

さとうきび新品種「農林30号」の12月の早期収穫での収量と糖度は、新植栽培(苗を植え付ける栽培方

法)、株出し栽培(収穫した刈り株から萌芽した芽を育てる栽培方法)の両方の作型で従来の品種「農林8号」より優れています(表1)。また萌芽性が良好で、現在の早期高糖性品種「農林22号」よりも脱葉しやすく、生産者が収穫しやすい特性をもっています。さらに黒穂病などのサトウキビ重要病害に対して抵抗性もあります(表2)。

【期待する活用場面】

「農林30号」は、奄美地域で栽培されている「農林8号」「農林17号」に置き替わる品種として、鹿児島県の奨励品種に採用されました。今後、早期高糖で株萌芽に優れた「農林22号」とともに収穫作業の容易な「農林30号」が状況に応じて使われ、奄美地域でのサトウキビ安定生産に貢献するものと期待しています。

【(前)作物開発・利用研究領域 石川 葉子】



写真1 左が「さとうきび農林30号(KN00-114)」の草姿、右は「さとうきび農林8号(NiF8)」

表1. 「さとうきび農林30号」の収量および糖度

作型	項目	農林30号	農林8号
夏植え 新植	原料茎数(本/a)	1217(131)	929
	一茎重(g)	1019(89)	1142
	原料茎重(kg/a)	1229(116)	1056
	甘蔗糖度(%)	14.6(106)	13.8
	可製糖量(kg/a)	162(119)	136
早期 収穫	原料茎数(本/a)	1193(139)	857
	一茎重(g)	727(93)	785
	原料茎重(kg/a)	874(131)	669
	甘蔗糖度(%)	15.5(103)	15.1
	可製糖量(kg/a)	124(135)	91
夏 株出し	原料茎数(本/a)	1193(139)	857
	一茎重(g)	727(93)	785
	原料茎重(kg/a)	874(131)	669
	甘蔗糖度(%)	15.5(103)	15.1
	可製糖量(kg/a)	124(135)	91

鹿児島県農業開発総合センター徳之島支場での成績。夏植え、夏株出しはそれぞれ6年間、5年間の平均値。括弧内の数字は標比を示す。

表2. 「さとうきび農林30号」の特性概要

	初期伸長	茎径	登熟性	脱葉性	黒穂病 抵抗性	葉焼病 抵抗性	さび病 抵抗性	モザイク病 抵抗性
農林30号	良	中細	早	やや易	強	強	強	やや強
農林8号	良	中	やや早	易	強	強	強	強
農林22号	極良	細	早	中	中	強	やや強	やや強